



耐候性のGPS 時間および位置情報

耐候性(IP65)
-30 to +60 °C



- MxBus搭載のMOBOTIXカメラのGPSタイムベース
- 新しいカメラアラームが利用可能（位置、速度、照度、温度）
- リモートインストール（最大100 m ワイヤの長さ）
- 取り付け用品を含む完全セット

MOBOTIXシステムの信頼性の高いGPSタイムベースには、屋外の温度と照度センサーが含まれています。2線ケーブルで接続

MX-GPS-Boxの接続



MOBOTIX IPビデオドア・ステーション
MX-T25M-Sec-D11



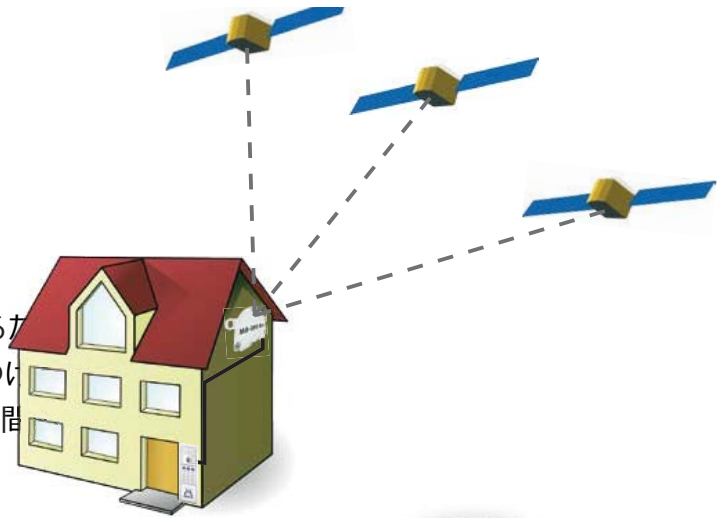
MOBOTIX カメラ

衛星受信感度：-180 dBm

取り付け手順

1. 適切な取り付け位置を見つける

MX-GPS-BoxによるGPS信号の最適な受信を保証するために、建物の外面には空をはっきりと見える場所を見つけなければなりません（MOBOTIXカメラとMX-GPS-Box間の配線の長さは最大100 mです）。



2. ボックスの取り付け

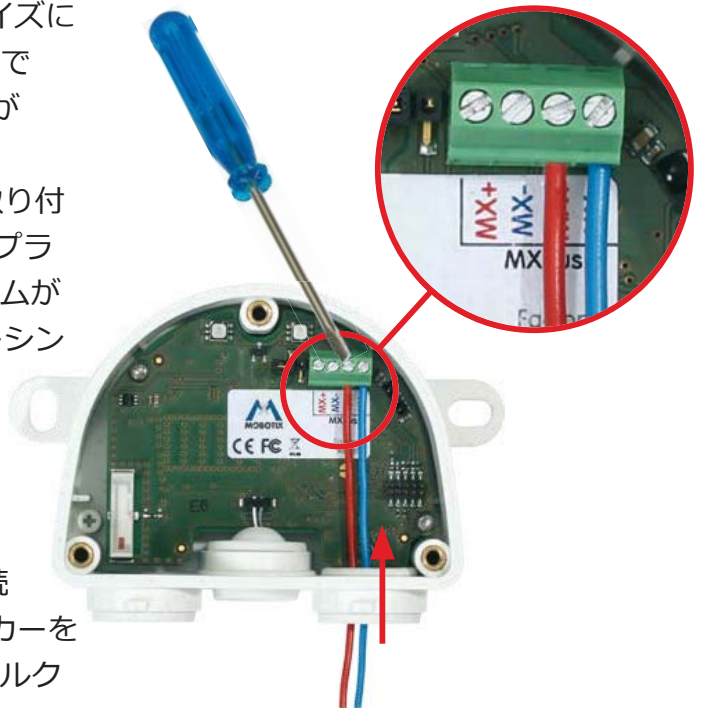
ケーブルポートを下に向けて、MX-GPS-Boxを取り付け位置に取り付けます。次に、ボックスカバー（3本のネジ）を外します。白いシールプラグ（左）またはセンサー（中央）を取り外さないでください！



3. MxBusワイヤを準備する

先に進む前に、MxBusワイヤに電圧がないことを確認してください！

付属のMxBusワイヤまたは既存のMxBusワイヤをサイズに切断します(2線式、直径0.6~0.8 mm)。シースなしでワイヤを使用する場合は、ワイヤの絶縁材を5mm剥がし、ワイヤを8線式プラグ（右）に押し込みます。シース付きケーブルを使用する場合は、あらかじめ取り付けられている8芯プラグを取り外し、適切なケーブルプラグ（3~5 mmまたは5~7 mm）を差し込みます。リムが両側に等しく張り出すように、ゴム製のプラグをケーシングに押し込みます。ケーブルをプラグに押し込み、シースを15 mmの長さで取り外し、ワイヤの絶縁体を約5mm剥がします。

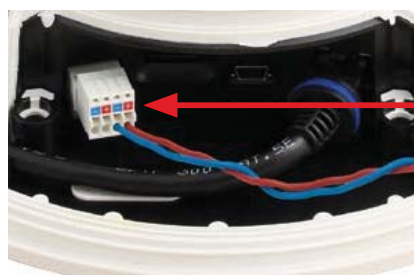


4. MxBusワイヤを端末に接続する

ドライバを使用して、ねじ端子にMxBusワイヤを接続します。極性を維持してください(端子の前にステッカーを見てください)。カバーを箱に戻して取り付けます(トルク 0.4 Nm)。

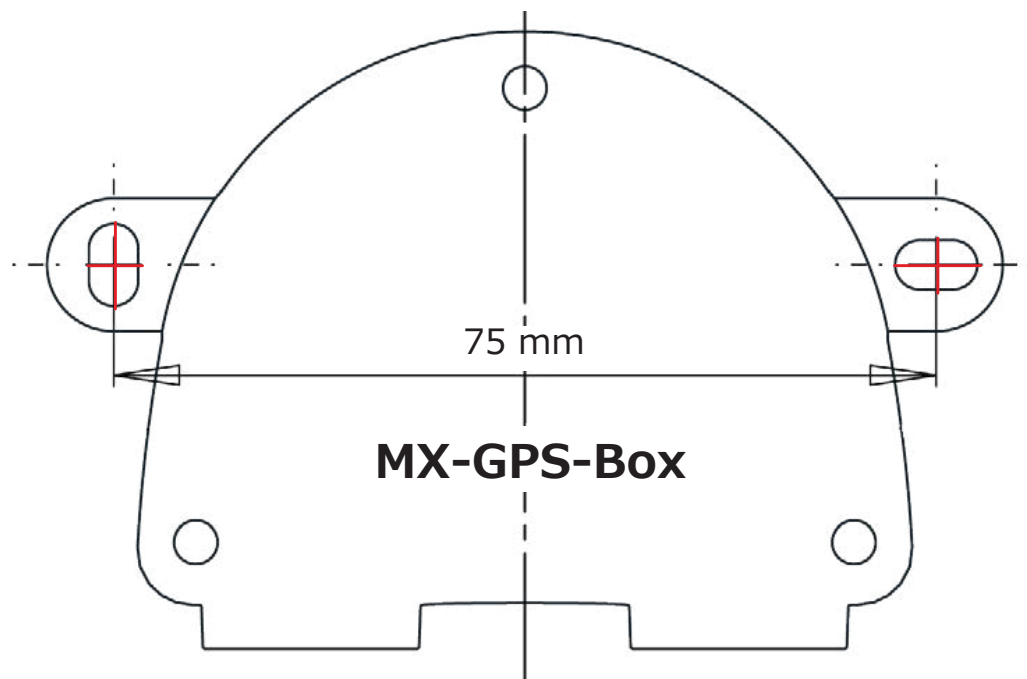
5. MxBusワイヤを反対側に接続する

MOBOTIXカメラまたはカメラ（例えば、キーパッド、セキュリティドアオープナー）に接続された他のMxBusモジュールに対応するマニュアルに記載されているようにMxBusワイヤを接続します。MxBus配線の全長が100 mを超えないようにしてください。



MOBOTIX D15のMxBusコネクタ

MX-GPS-Boxの穴開け用テンプレート



新しいIPビデオドア・ステーションの初期作業

新しいMOBOTIX IPビデオドアステーションを初めて取り付ける場合、自動設定機能を使用するとMX-GPS-Boxが自動的に検出されます。このプロセスでは、システム全体がタイムサーバとして使用されるように設定されます（www.mobotix.comのIPビデオドアステーションシステムマニュアルパート2を参照）。

イノベーション - Made in Germany

ドイツの会社MOBOTIX AGはネットワークカメラ技術のパイオニアとして知られています。

その分権化されたコンセプトは、高解像度ビデオシステムをコスト効率の高いものにしました。

MOBOTIX AG • D-67722 Langmeil • Phone: +49 6302 9816-103 • Fax: +49 6302 9816-190 • sales@mobotix.com

LEDシグナリング



		LEDが消灯
		LEDが恒久的に点灯
		定期的にLEDが点滅する
		LEDが短時間停止している (1/6秒)

LED		意味
MxBusの ステータス (左)		MxBusが接続されていません
		通常の動作
		暗号化されていない通信
		バス通信がない (暗号化が無効など)
GPS信号 (右)		利用可能なGPSデータがありません
		時間データのみ利用可能
		利用可能な2D位置データ
		利用可能なフル3D位置データ

MX-GPS-Boxを手動で初期化する

1. ブラウザでMOBOTIXカメラのユーザーインターフェイスを開く

- ブラウザ (管理者アクセス権が必要) でMX-GPS-ボックスに接続されたカメラのIPアドレスを入力します。 **http : //<camera ip address>**
- カメラのライブ画面で「Admin Menu」 ボタンをクリックします。

2. MxBusインターフェイスを有効にする

- ハードウェア構成セクションで「MxBusモジュールの管理」をクリックします。
- まだ実行していない場合は、「MxBusモジュールの管理」ダイアログでMxBusインターフェイスを有効にします：MxBusインターフェイスのセクションで[接続]ボタンをクリックします。約15~20秒後、ステータスが「使用可能な新しいデバイス」に変更され、「デバイスタイプ」に「デバイス」セクションの「アドレス可能」ステータスのGPSモジュールが表示されます。

3. MxBusモジュールとしてMX-GPS-Boxを起動する

- 「MxBusモジュールの管理」ダイアログボックスのデバイスセクションのGPS モジュールラインで、アクティブボタンをクリックします。約10~15秒後、ステータスがアクティブに変わり、MX-GPS-BoxのステータスLED (左) が緑色に点灯します。


4. タイムベースとしてMX-GPS-Boxを設定します。

MX-GPS-Boxは、MOBOTIXシステム全体のGPSタイムベースとして使用でき、システムを同期させる正確な時間を提供します：


- カメラのライブ画面で、「Admin Menu」 > 「カメラ管理」 > 「時間と日付」をクリックします。
- タイムサーバプロトコルがNTPに設定されていることを確認します。
- 「時間設定」 > タイムサーバ」セクションの空のフィールドに127.127.1.0と入力します。他のNTPサーバは、冗長性を増強するため、削除しないでください (到達可能であれば)。
- 「設定」をクリックし、次に「閉じる」をクリックして設定を永続的に保存します。
- カメラを再起動します (「Admin Menu」 > 「一般的なタスク」 > 「再起動」)。
- 再起動後、少なくとも5分待ち、「Admin Menu」 > 「カメラの管理」 > 「時刻と日付」のダイアログを開き、ローカルNTPサービスのセクションを確認してください。これで、参照欄に「GPS」エントリが表示されます。
- このカメラのIPアドレスを、他のすべてのカメラの対応するダイアログにNTPタイムサーバとして入力します。

5. GPSの位置、GPSの速度、温度、照明の追加イベントを設定する


これらのイベントを使用して、接続されたMOBOTIXカメラが定義された位置を離れるか、定義された速度に達するか、定義された速度を超えたり下回ったりすると、アラームをトリガすることができます：

- カメラのライブ画面で「Setup Menu」>「イベント制御」>「イベントの概要」をクリックします。
- 「環境イベント」セクションの「編集」ボタンをクリックします。
- ダイアログの下部にある「新しいプロファイルの追加」をクリックし、目的の「イベントセンサータイプ」を選択し、プロファイルの新しい名前を入力します（例えば、GPS位置のGP、MX-GPS-Boxの温度のGT）。新しい温度イベントまたは照度イベントを定義するときは、センサーソースをGPSボックスに設定する必要があります。
- 必要に応じて、選択したセンサーのパラメータを設定します（たとえば、「現在の位置に設定」ボタンをクリックして現在の位置をアンカー位置として使用します）。
- わかりやすい名前の個々のプロファイルを作成して、必要な他のイベントを引き続き定義します。（このダイアログのヘルプトピックを表示するには、 をクリックしてください）。
- 「設定」をクリックし、次に「閉じる」をクリックして構成を永続的に保存します。

Note on Using "GPS Position" as Event

環境イベントとしてGPS位置を使用する場合は、GPSデータの精度を考慮する必要があります。精度は、外部要因（例えば、現在受信している衛星の数、天候など）によっても変化します。したがって、このように誤報を回避するのに十分な大きさである距離の値を設定する必要があります。適切な値を取得するには、ブラウザの右上隅にある  をクリックし、「カメラステータス」ダイアログの「センサー」>「GPS位置」セクションで精度を決定します。

6. 追加イベントのアクションを定義する

- カメラのライブ画面で、「Setup Menu」>「イベント制御」>「アクショングループの概要」をクリックします。
- ダイアログの下部にある「新しいグループの追加」ボタンをクリックします。
- グループのわかりやすい名前を入力し、この行の「編集」ボタンをクリックします。
- 「イベント選択」リストで対応するイベントを強調表示し「新しいアクションを追加」をクリックして目的のアクションを追加します（このダイアログのヘルプトピック  をクリックしてください）。
- 「設定」をクリックし、次に[閉じる]をクリックして設定を永続的に保存します。

7. カメラの設定を保存する

- カメラのライブ画面で、Admin Menu（管理メニュー）>Configuration（構成）>Store（ストア）をクリックして、カメラの設定を（リポートせずに）永久的に保存します。
- カメラの設定をローカルコンピュータに保存します（「Admin Menu」>「設定」>「保存」）。

MX-GPS-Boxのリセット

以前にMX-GPSボックスを別のカメラに接続していた場合、MxBus接続を確立した後、左のLED(MxBusステータス)が赤く点滅している可能性があります。この場合、接続してアクティブ化されたMX-GPS-Boxを工場出荷時のデフォルトにリセットする必要があります。

- ボックスカバー（3本のネジ）を取り外します。
- ドライバーなどを使用して、工場出荷時のリセットラベル（図の赤丸）の下に接触面を橋渡しします（両方のLEDが周波数の増加とともに赤色/青色で点滅します）。
- MX-GPS-Boxの両方のLEDがグリーンで3回点滅している場合は、ブリッジを取り外すだけでプロセスが正常に終了したことを示します。
- カバーをボックスに戻して取り付けます（トルク1~1.2 Nm）。
- カメラにMX-GPS-Boxをセットアップします（上記のMX-GPS-Boxの手動初期化を参照）。



注意事項

- MOBOTIX MX-GPS-Boxは、IP65環境でのMOBOTIXカメラのセンサーデータ（GPS位置/速度、温度、照明）の提供にのみ使用されます。
- MxBusコネクタとソフトウェアバージョンMX-V4.1.1.21以上のMOBOTIXカメラの場合。
- 追加イベントは、MOBOTIX Webおよびベーシックカメラモデルでは利用できません。
- GPSデータの精度は、外部要因（現在受信している衛星の数、天気など）によって変化します。
- すべての関連法規を遵守し、意図された使用に関するすべての認証要件を満たしていることを確認してください。
- 受信感度：-180 dBm
- すべてのボックスカバーネジのトルク：0.4 Nm。
- MxBus配線用のケーブルプラグ(8線式プラグまたはケーブルプラグ3~5 mmまたは5~7 mm、右)を使用する場合は、リムが両側に等しく突き出るようにプラグをケーシングに押し込んでください。
- MxBus配線全体の長さは、100 mを超えないようにしてください。
- MxBusワイヤの直径：0.6~0.8mm（線損失を避けるために0.8 mmを推奨）。

イノベーション - Made in Germany

ドイツの会社MOBOTIX AGはネットワークカメラ技術のパイオニアとして知られています。

その分権化されたコンセプトは、高解像度ビデオシステムをコスト効率の高いものにしました。

MOBOTIX AG • D-67722 Langmeil • Phone: +49 6302 9816-103 • Fax: +49 6302 9816-190 • sales@mobotix.com